

戦評用紙

第 1 試合

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第15回 鈴木正三杯		開催日 平成24年1月22日 (日)	会場 西東京市スポーツセンター
男子	女子	対戦名 国立一JAY HAWKS スポーツ少年団 VS 鳥北ミニバスケットボールクラブ	

第1クォーター

国立一のゾーンディフェンス、鳥北も厳しいプレスディフェンスで、両チーム共スタート。国立⑤が開始1分30秒、ドライブインで先制。鳥北は、なかなかシュートまでいけない。国立一は⑤の高さを生かし得点を重ねる。鳥北は⑦フリースローで追いつける。国立一⑧のジャンプシュート、速攻で加点する。鳥北も、⑥ドリブルイン、⑬ジャンプシュートで反撃。高さに勝る国立が12-6で第1Q終了。

(12 — 6)

第2クォーター

開始10秒、鳥北は⑧ミドルシュートが決まるが、国立一④ジャンプシュート、フリースローで差を広げる。鳥北⑧のドライブインが入ると、⑨のリバウンド、⑤のパスカットからの連続3ゴールで16-14と2点差となり国立たまたまタイムアウト。再開後、鳥北の流れは変わらず、残り1分20秒⑤のゴール下シュートで16-16と同点。同点に追いつかれた国立一も粘り、残り15秒で⑨がゴール下シュートを決め18-16国立一2点リードで前半終了。

(6 — 10)

第3クォーター

開始15秒、鳥北⑤のジャンプシュートで18-18同点。国立一も④ジャンプシュートで得点。その後硬直状態が続くが国立一⑤の高さを活かしたリバウンドからのシュート、⑧ミドルシュートが連続で決まり差を広げにかかる。鳥北もファールからのフリースローで追いつけるが残り1分30秒28-23と5点差。鳥北⑧がリバウンドから得点すると⑧ミドルシュート⑤シュートが決まり残り15秒で28-29と鳥北逆転。国立一もノータイムで⑤がシュートを決め30-29再逆転、国立一1点リードで第3Q終了。

(12 — 13)

第4クォーター

開始15秒、鳥北が⑥ドリブルインで30-31で逆転。国立一も⑦のリバウンドからのシュートで反撃。鳥北⑧ドリブルイン、バスケットカウントの1スローを決めると、⑤ジャンプシュートも決まり32-36と引き離しにかかる。互いに点を重ね一進一退が続く。残り1分10秒、国立一⑤ドライブイン、フリースローで38-38と同点に追いつく。残り5秒、国立一は⑧からゴール下の⑦へのパスが通りシュートも決まり国立一が逆転。試合が決まったかに見えたが、鳥北がブザービーターで⑦のゴール下シュートが決まり同点。40-40となり3分の延長に入る。

(10 — 11)

延長

スタート30秒、国立一⑥ミドルシュートが決まる。鳥北⑥ミドルシュートを打つが決まらず流れがつかめない。国立一はゴール下シュートが決まり44-40と差を広げる。鳥北は⑥⑧のフリースローで1点づつ加点。国立一⑤のゴール下シュートが決まると、鳥北はその流れを止められず、国立一⑦のシュートが決まりノータイム。48-42国立一が決勝進出を決めた。鳥北は国立一に高さでは劣ったが、一生懸命頑張るディフェンスが最後まで光るゲームだった。

(8 — 2)

チーム名	得点	得点	チーム名	記入者名
国立一	48	42	鳥北	小島 一俊
-----	<div style="font-size: 4em; vertical-align: middle;">[</div> <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; text-align: center;"> 18 — 16 22 — 24 8 — 2 </div> <div style="font-size: 4em; vertical-align: middle;">]</div>	-----	所属	
				北フープステアズ

戦評用紙

第 2 試合

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第15回鈴木正三杯		開催日 平成24年1月22日 (日)	会場 西東京市スポーツセンター
男子 ・ 女子	対戦名	清瀬バスケットボールクラブ VS	青葉小ミニバスケットボール育成会

第1クォーター

両者開始早々から動きが良く、プレッシャーのあるディフェンスでお互い1分以上得点が入らない状態が進むが、口火を切ったのは青葉。⑦がジャンプシュートを決め先制、すぐに清瀬④もジャンプシュートを確実に決め同点とする。その後青葉の⑦が連続でシュートを決め、⑤もドライブからファールをもらいフリースローを1本決め、開始3分半で5点差をつけ一気につき放しにかかる。しかし、終盤清瀬も頑張り、④がロングシュート、ドライブからのシュートを連続で決め、最後残り10秒で再び④がロングシュートを決め、2点差まで詰め寄り、青葉へ傾きかけた勢いを止め、第2Qへつないで終了した。

(9 — 11)

第2クォーター

第2Qも両者ディフェンスのプレッシャーが強く、第1Q同様前半は得点が入らない。最初に得点を入れたのは清瀬。⑥がポストプレーでシュートを決め同点とする。青葉は、第2Q開始から3分得点が入らない中、⑥がジャンプシュートを連続で決めようやく流れをつかむ。中盤青葉のプレッシャーのあるディフェンスの前に清瀬は連続でミスをし、悪い空気を断ち切る為残り2分でタイムアウトをとる。タイムアウト後清瀬は、ドライブや⑥のポストプレーで何とか得点を入れようとするが、青葉のディフェンスを崩す事が出来ず、第2Qは2点しか決める事が出来なかった。青葉は最後に④がドライブでファールをもらいフリースローを確実に決め6点差と差を広げいい流れで第2Qを終了する。

(2 — 6)

第3クォーター

第3Q開始早々から青葉が④⑤⑨の連続得点で一気に突き放しにかかり、開始2分で10点差をつける。その後も⑥⑦のドライブからのシュートが確実に決まり、オフェンスリバンドも青葉が支配し、開始3分半で16点差となった所で清瀬がたまたまタイムアウト。タイムアウト後、清瀬も何とか挽回を図るが、青葉のディフェンスを崩す事が出来ず、ミスも多くなる。青葉に連続で追加点を許してしまい、一気に23点差をつけられ第3Qを終了する。

(2 — 19)

第4クォーター

点差が開いた状態でスタートした第4Q、清瀬は序盤で何とか追いつこうとディフェンスでプレッシャーをかけるが、青葉の④⑦が連続でシュートを確実に決め、⑥がオフェンスリバンドを制し、逆に点差を広げられ流れは変わらない。その後も青葉は着実に得点を重ね残り3分で30点差をつける。清瀬は終盤意地を見せ残り2分から連続で④がミドルシュートを決め、⑥がポストプレーからファールをもらい、フリースローを2本確実に決めるが反撃もそこまでだった。第3Q序盤で一気に走った青葉が最後まで流れを離す事なく勝利を手にし、決勝戦への切符を手にした。清瀬は第3Qで、青葉の流れを断ち切れなかったことが最後まで響いた。

(7 — 12)

チーム名 得点

清瀬 20

得点 チーム名

48 青葉小

記入者名

佐々木 博人

所属

旭光ミニバス

(11 — 17)
(9 — 31)

戦評用紙

第 3 試合

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第15回鈴木正三杯		開催日 平成24年1月22日 (日)	会場 西東京市スポーツセンター
男子	女子	対戦名 弥生第二スポーツ少年団青空クラブ VS	リトルブルズ

第1クォーター

優勝大会ベスト4の両チームが、決勝進出を懸けた対戦。弥生第二はオールコートマンツーマン、リトルブルズはハーフコートマンツーマンでスタートした。弥生第二⑤パスカットからの得点で先制すると、リトルブルズは長身⑤がリバウンドを決め入れ返す。両チーム順調に滑り出したが、弥生第二のミドルシュートが連続で決まり、残り3分で7-4と弥生第二が3点リード。高さのリトルブルズに対し、弥生第二はディフェンスを頑張るが、フリースローが入らずに波に乗れずにリトルブルズの反撃にあう。互いに得点を挙げて残り4秒、弥生第二⑤がフリースローを落ち着いて2本とも決めて15-11で弥生第二が4点リードして第1Qは終了。最後まで弥生第二のディフェンスが目立ったQであった。

(15 — 11)

第2クォーター

ディフェンスは1Qと変わらず、弥生第二はオールコートマンツーマン。リトルブルズは、ハーフコートマンツーマンでスタート。リトルブルズは弥生第二の厳しいディフェンスに攻撃が単調になり、逆に連続で失点してしまう。リトルブルズ・ベンチは弥生第二に9点差をつけられ、たまたらずにタイムアウトを取り反撃を試みる。再開後、リトルブルズのリバウンドが機能しはじめ、⑤⑩がリバウンドから連続で得点を挙げる。弥生第二は高さで劣るが、ボールへの早い寄りで相手へプレッシャーを掛けてミス誘い、⑦⑥が連続で得点を挙げて踏ん張る。残り1.8秒、弥生第二⑥がファールを誘い、フリースローで加点して前半は弥生第二が12点差をつけて前半を終了。第2Qも、弥生第二のディフェンスが目立った。

(16 — 8)

第3クォーター

ディフェンスは、両チームとも前半と同じでスタートする。リトルブルズの長身者3人に対し、弥生第二のオフェンスのリズムが狂いだす。開始から2分間、両チームともに得点を挙げる事が出来ない。パスミスを繰り返すも3分過ぎに得点が動き出し、リトルブルズ④⑦のドライブで反撃し4点差に詰めるが、弥生第二も⑥⑤が連続で得点を入れて盛り返す。第3Qはブルズのオフェンスの勢いが勝り、ディフェンスの頑張り第4Qに期待を繋いだ。

(7 — 9)

第4クォーター

ブルズボールでスタート。4Qに入ると弥生第二もリトルブルズの高さに慣れ、攻守にリズムが出てきて相手のミスに乗じて得点する。残り2分からリトルブルズはオールコートマンツーマンにディフェンスを変えて、プレッシャーをかけるが、弥生第二は落ち着いてボール運び得点を重ねる。リトルブルズは焦りからかシュートが中々決まらず15点差で試合終了、4年ぶりの決勝進出となった。最後まで弥生第二のディフェンスが光る試合だった。リトルブルズは長身者を揃えてゴール下を制したが、弥生第二の素早い攻守の切り替えにディフェンスが対応しきれなかった。

(17 — 12)

チーム名	得点	得点	チーム名	記入者名
弥生第二	55	31 — 19 24 — 21	40 リトルブルズ	坂田 康治
				所属
				高松ミニバス

戦評用紙

第 4 試合

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第15回鈴木正三杯		開催日 平成24年1月24日 (日)	会場 西東京市スポーツセンター
男子・女子	対戦名	F J B C	VS 松江キッズ ミニバスケットボールクラブ

第1クォーター

松江2-2-1のゾーンプレス、F J B Cはハープのマンツーマン。F J B Cは④のミドルで先制。すぐに松江④がロングで返す。松江は④が起点となって攻め、バックコートから当たりの強いプレスを仕掛ける。F J B Cは速いパスで攻める。松江⑨のゴール下、F J B C⑫の速攻で4分40秒、4-4。お互い厳しいディフェンスで、得点のない時間が続くがファールも増える。2分23秒、F J B C⑫のゴール下がバスカン。f / t も決まり7-4。松江は④がファールを得て1本決め、7-5と松江。F J B Cは松江の2-2-1の裏へパスを入れ始める。2分02秒、松江⑭のドライブにF J B C⑦がファールでF J B C4ファール。直後に松江④のシュートにF J B C④がファール。f / t を2本決め7-7の同点。お互いリバウンドから速いボール運びでロングを打つがなかなか決まらない。残り10秒、F J B Cが速攻から⑫のゴール下でF J B C9-7松江。直後に松江④がドライブで攻めるも、チャージングで3つ目のファール。1Qは僅差でF J B Cリード。(9 — 7)

第2クォーター

F J B Cボールでスタート。共にディフェンスは同じ。お互いルーズボールに積極的に飛びつく。しかしファールもかさむ。F J B C⑤が続けて2つファール。お互いシュートがリングに嫌われ、得点がない状態が続く。2分43秒、F J B C⑪のファールで4ファール。2分22秒、F J B C⑤が3つ目のファール。松江⑥がf / t を1本決め1点差。しかし外からのシュートはなかなか決まらない。0分35秒、松江⑤がステップイン9-10松江。0分30秒、続いて松江⑧がドライブ9-12松江。カットに飛んだ松江⑤がファール。残り12秒、F J B Cがタイムアウト。白スタートでF J B Cは⑧から⑪へパスが通りゴール。F J B C11-12松江で後半へ。(2 — 5)

第3クォーター

F J B Cボールスタート。若干サイズは松江。松江はディフェンスをマンツーマンにする。F J B C⑨のゴール下、松江⑧がf / t を1本決め13-13の同点。F J B Cは⑧がドライブで積極的に攻める。松江は④のジャンプシュートが増える。3分35秒、F J B C⑦が4つ目のファール。F J B Cは⑧のf / t とミドル、松江は④のf / t、ミドルと⑥の速攻で残り2分、F J B C16-20松江。ここからF J B Cは⑦のミドルと⑧の2本のf / t で20-20の同点。残り30秒。F J B C④がファールでF J B C4ファール。20秒、松江④のドライブが決まりF J B C20-22松江で最終Qへ。(9 — 10)

第4クォーター

共に3Qと同じメンバー。松江ボールでスタート。お互いディフェンスは当たりが強い。F J B Cは⑧のポストプレーで同点とする。松江は④が積極的に攻め、④のロングのリバウンドを⑥⑪が取る。F J B Cは⑧が起点となってドライブを仕掛け、リバウンドも頑張る。残り3分、3点差を追いつけるF J B Cは、⑧のドライブに松江⑧がファール。f / t を2本決め1点差、28-29松江。1分58秒、松江④のドライブ。1分48秒、すぐにF J B C⑦のステップイン、F J B C30-31松江。いい流れからF J B C⑤がルーズボールを頑張り、残り1分34秒、⑧のゴール下ステップインに、松江⑦がファール。松江タイムアウト。t / o明けF J B C⑧が確実にf / t を2本沈め逆転、F J B C32-31松江。ここから松江は④が積極的にドライブとミドルを決め連続で決め、残り1分03秒、F J B C32-35松江と再逆転。F J B Cタイムアウト。F J B Cボールから⑦のロングが外れ、F J B C⑤がディフェンスファール、4つ目。残り40秒、松江⑥がポストプレーでF J B C32-37松江。F J B Cは速い攻めから⑤がロングを打つが決まらず、逆に⑦がディフェンスファールで痛恨の5ファールとなり退場。交代で⑨が入る。F J B Cは速い展開から攻め続けるが、⑧のロングシュートのリバウンドを松江⑥が押さえゲームセット。ミドルシュートがよく決まった松江キッズが決勝に進んだ。(12 — 15)

チーム名 得点

F J B C 32

得点 チーム名

37 松江キッズ

記入者名

平林 昭二

所属

アンリミテツズ

戦評用紙

第 5 試合

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第15回鈴木正三杯		開催日 平成24年1月22日 (日)	会場 西東京市スポーツセンター
男子 ・ 女子	対戦名 国立一JAY HAWKS スポーツ少年団 VS 青葉小ミニバスケットボール育成会		

第1クォーター

センタージャンプより国立一がシュートを決めて先制。国立一は厳しいプレスディフェンスから流れをつかみ、⑩⑤⑧⑫と4連続でシュートを決め序盤で8-0とリード。滑り出しは国立一に押され気味の青葉は、慌てることなく自分たちのバスケットを展開し、⑦がスピードに乗ったプレーからジャンプシュートを沈めるとリズムをつかみ、一気に4連続得点を挙げて12-12のイーブンに戻し、振り出し状態で1Q終了。

(12 — 12)

第2クォーター

青葉ボールでスタート。スタート早々は両チーム共、硬さからリズムをつかめず、1分30秒間無得点状態。均衡を破ったのは国立一④のシュートだが、その後は青葉がテンポの良い攻撃からリズムをつかみ、④⑥と、3連続得点して、国立一を引き離しにかかる。この時国立一の選手にコンタクトレンズが外れるアクシデントが発生し、選手交代を強いられてしまう。その後、国立一も奮起し④が加点するが、青葉のリズムを変えられずに終了。前半を終えて、青葉が国立一を6点リードする。

(4 — 10)

第3クォーター

ベストメンバーでの対決。青葉ボールでスタート。青葉⑥のジャンプシュートが決まり8点差となる。青葉はオールコートで国立一のボール運びにプレッシャーをかけるが、国立一は落ち着いてボールをコントロールして⑤へパスを通し、⑤が長身を利して3連続でシュートを決めて追いつがる。青葉も⑦のスピードの乗った個人技で対抗し、このクォーターは一進一退の互角で終了。国立一は5点差に詰めて最終クォーターへと進む。

(6 — 5)

第4クォーター

国立一は、⑤のポストプレーからシュートを決め3点差に詰め寄る。その後は青葉がディフェンスを頑張り、国立一に思うようにオフェンスさせず、逆にディフェンスリバウンドから⑦のワンマン速攻で2連続得点とリズムをつかむ。国立一⑤も粘りをみせて積極的なプレーでフリースローをもらい加点する。その後も⑤を軸にオフェンスを展開するが単調となり、青葉のディフェンスを崩し切れない。青葉は、ディフェンスリバウンド獲得から速攻に繋げて加点、最後まで自分たちのリズムに乗った攻守で快勝。昨年末の関東大会ブロック優勝に続く、鈴木正三杯二年ぶりの優勝となり、3月末の全国大会東京都代表の切符を勝ち取った。

(5 — 12)

チーム名 得点

国立一 27

得点 チーム名

39 青葉小

記入者名

星 光男

所属

恩方

戦評用紙

第 6 試合

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第15回鈴木正三杯		開催日 平成24年1月22日 (日)	会場 西東京市スポーツセンター
男子・女子	対戦名 弥生第二スポーツ少年団青空クラブ VS	松江キッズ	

第1クォーター

昨年末の関東大会へ東京都1位・2位として出場した両チームの戦いは、まず松江がボールキープでスタート。ディフェンスは両チーム共に、オールコートマンツーマン。松江はプレス気味に厳しい当りをみせる。ファーストゴールは松江④のゴール下。弥生第二も⑩がゴール下を決め返して互角の滑り出し。開始2分、弥生第二が10-4とリードする展開。残り2分55秒で弥生第二が12-6となった処で松江がタイムアウト。再開後も弥生第二にディフェンスで厳しいプレッシャーを掛けられ、松江はオフェンスで攻めあぐねる。弥生第二が12点リードして第1Qを終了。 (20 — 8)

第2クォーター

開始早々、松江の長身⑥のゴール下が決まる。しかし弥生第二も連続でゴールを決め、得点差は詰まらない。その後お互いに細かなミスが続く、約2分間ノーゴール。一進一退となるも松江⑥がゴール下での頑張りから得点を挙げて、残り1分30秒で29-22と追い上げる。残り33秒で弥生第二は4ファール。松江は⑫がフリースローを2本とも外すが、⑥が長身を利してフォローアップから得点する。残り8秒で弥生第二がファールを犯し松江⑥がフリースローを得て1本決め、弥生第二6点リードで前半終了。第2Qは、体格差を有利に結びつけた松江が追い上げたQとなった。 (11 — 17)

第3クォーター

松江ボールでスタート。お互いに攻め合うがなかなか得点に結びつかなかったが、開始1分松江⑥のジャンプシュートが決まり得点が動き出す。弥生第二は前半同様ディフェンスは、オールコートマンツーマン。松江は、オールコートとハーフコートのマンツーマンを使い分けるディフェンス。開始から3分、松江⑪のゴール下が決まり2点差と追い上げる。弥生第二も攻守の早い切り返しからの展開で連続得点を挙げて対抗する。残り30秒、松江⑤のシュートが決まり2点差まで追い上げて第3Qを終了。第2Q終盤からの勢いを継続した松江が勢いが勝り、決勝戦に相応しい一進一退の拮抗した戦いとなる。 (4 — 8)

第4クォーター

優勝をかけた最終Q、開始早々に松江は徹底してゴール下の長身⑥へパスを伺い、⑥がゴール下を正確に決めてこの試合初めて同点とする。同点とされた弥生第二も早い切り返しから連続得点を挙げ4点差とする。残り2分20秒、弥生第二のパスミスから松江が決め、続けて松江⑤のジャンプシュートが決まり、松江がこのゲーム初めてリードをする。すかさず弥生第二も入れ返して、残り1分、45-45。弥生第二のシュートファールから得たフリースローで、松江④が1本決めて再度リード。残り36秒で弥生第二がシュートファールを犯し松江④が再度フリースローを得て勝負所で2本ともきっちり決め3点リード。粘る弥生第二は、④が積極的なプレーからシュートを決め1点差。残り11秒、弥生第二ボールで弥生第二がタイムアウト。再開後、弥生第二は素早いボール運びから、⑤がドライブインを仕掛けてシュートすると、松江⑥がファール、弥生第二⑤がフリースローを得る。残り6秒、⑤1本目を外すが2本目を入れ同点、ゲームは延長戦へ。 (13 — 15)

松江ボールでスタート。松江④の強気なドライブシュートが外れ、弥生第二はターンオーバーから⑦が決める。松江も、弥生第二のシュートファールで⑥がフリースローを1本決め1点差。弥生第二は⑤⑥が連続でロングシュートを決め、松江を突き放す。残り1分25秒、5点差。松江は⑥のゴール下が決まるが、直後の弥生第二のロングパスに対応出来ず⑩にレイアップシュートを決められ、再び5点差。残り59秒松江タイムアウト。松江ボールで再開するが、手痛いバイオレーションで弥生第二ボールとなる。最後は、弥生第二がボールキープをして終了。両チーム優勝をかけた一進一退の白熱したゲーム展開は、決勝戦に相応しい素晴らしい内容であった。弥生第二は体格では劣ったが、パス・ドリブルといった基本技術のレベルとチーム全員のディフェンスに対する意識が共に高く、昨年9月の優勝大会に続く2冠を制した。敗れた松江キッズも、長身⑥の柔らかなボールタッチと、小柄な④⑤の積極的なプレーが印象に残った好チームだった。 (8 — 3)

チーム名	得点	得点	チーム名	記入者名
弥生第二	56	31 — 25	51 松江キッズ	戸田 重孝
-----		17 — 23	-----	所属
		8 — 3		N. C ベアーズ